

# はじめに

急速かつ激しい変化が進行する現代の社会を、一人一人が主体的・創造的に生き抜いていくために、児童生徒に基礎的・基本的な知識や技能を確実に定着させることはもとより、その知識・技能を生かして社会で生きてはたらく力、生涯にわたって学び続ける力をはぐくむ教育活動を展開していくことが、学校教育に求められています。

しかし、児童生徒の学習や生活の状況をめぐっては、学ぶ意欲や生活習慣の未確立、後を絶たない問題行動、規範意識や体力の低下など様々な課題が提起されています。

平成17年10月に出された「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」では、新しい義務教育の姿として、学校の教育力すなわち「学校力」を強化し、「教師力」を強化し、それを通じて児童生徒の「人間力」を豊かに育てることが改革の目標であると述べられています。そのためには、学校は目指す教育の目標をこれまで以上に明確にし、それに即して児童生徒に必要な学力、体力、道徳性をしっかりと養い、教育の質を保証することが重要となってきます。

当教育研究所におきましては、このような状況を踏まえつつ、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成するための教育の在り方について研究を行い、その成果を「研究紀要第13号」並びに「研究集録 第13号」として発刊いたしました。「研究紀要」は当教育研究所の指導主事の研究、「研究集録」は平成17年度奈良県立教育研究所長期研修員及び奈良県教育委員会指定研究員による研究をまとめたものです。

これらの研究の成果をご一読いただくとともに、研究をより一層発展させるためにも、ご教示・ご意見を賜れば幸いに存じます。

なお、末筆となりましたが、調査研究のためにご指導、ご協力を賜りました皆様方に、心からお礼申し上げます。

平成18年3月

奈良県立教育研究所

所 長 井 上 喜 一